

# パチンコ依存症

依存症150万人は普通の良き夫、良きパパだった人達である。  
たった一回の人生に寄生し生活を蝕み続ける  
パチンコ依存症とは何か。



渡井諒助

## 蟻地獄に落ちた人々

---

車通勤をしているある35歳サラリーマンの話からはじめる。

会社帰りにふと立ち寄った大きな駐車場のある郊外型大型パチンコ店が悲劇の始まりだった。初心者にとって店内の喧騒はそれだけで日常の感覚を麻痺させてくれるのに十分な効果があった。何回目かに立ち寄ったときに大当たりし玉受け皿にあふれ出る音に頭の中はしびれるような快感に満たされた。

景品交換所で10万円近い現金を手にしたとき今まで経験をしたことのない陶酔感に全身が包まれその余韻は数日続いた。これでパチンコ依存症の病魔はこのサラリーマンにしっかりと獲りつきたいたのである。

当人はパチンコくらいいつでも止められると思いながらのめり込んでいく自分の姿から目を逸らし、最近生活が苦しくなったのは妻のやり繰りが下手だからなどに見当違いを言いながらいつの間にか預金も底をついてしまった。

そしてお定まりのサラ金地獄、家庭崩壊へと落ち込んで行ったのである。実際にはアルコール依存症と同じで酒を飲み始めたら誰でもすぐにアルコール依存症になる訳ではなく、三～四年から十数年の紆余曲折を経ながら蟻地獄の底へと少しずつ落ちていくのである。

このように落ちるところまで落ちてしまうとさすがのパチンコ依存症の病魔も居づらくなって追い出し易くなるようである。しかもこのくらい劇症依存症になると色々な相談窓口や依存症治療機関、リハビリ施設などもありパチンコビジネスも行き届いている。

ネットでパチンコ依存症で検索してみれば一画面に収まらないほどに精神医療から債務処理で司法書士のサイトまで多種多様のサイトがヒットする。

ぎりぎり必要最低限の生活費以外をパチンコにつき込んでしまいつつもなんとか生活を維持している症状もある。貴方の会社の同僚で同じくらいの給料を貰っているはずなのになぜか身なりや昼間食う物がいまいちな人がいたらその人はこの病魔に獲り付かれている公算が大きい。

ある地方都市の郊外に親から相続した屋敷に住みながら会社勤めも30年経とうとしているのに近所の家は綺麗に立て直されていく中で古さだけが際立って手入れも出来ない状態の人がいた。この人は病魔に獲り付かれていることを自覚しながらここまできてしまったが借金が嫌いなことが幸いし土地だけは残ったのである。このタイプの症状の人に周囲の人が立ち直らせようとローンで住宅を買わせても殆んどの場合返済不能に陥るようである。

精神医療の専門家の中には脳内モルヒネとも言えるβエンドロフィンという物質がパチンコの大当たりなどの刺激が加わると脳内に分泌され快感と陶酔感をもたらすモルヒネ中毒に似たことになるという説を唱えている人もいる。

パチンコ依存症の悲劇性はその事例を見れば薬物依存症に決して引けをとるものではない。薬物に関しては警察も厳しく取締りが行われ普通の人々が依存症になる危険性は極めて少ないがパチンコ依存症の元であるパチンコ屋は365日昼日中から街中に野放しにされ、そこに入るための制約は成人であること以外には無いのである。

消費者ローンの多重債務に陥る人が後を絶たず消費者ローンへの規制強化が行われているが需要を生み出しているパチンコを野放しにしたままでは闇金業者を助成しているようなものである。自己責任の時代と言われる今日ではパチンコで身を持ち崩すのは本人の自業自得の問題だと見過ごされがちだが最後には生活保護など国費が使われることを忘れてはならない。

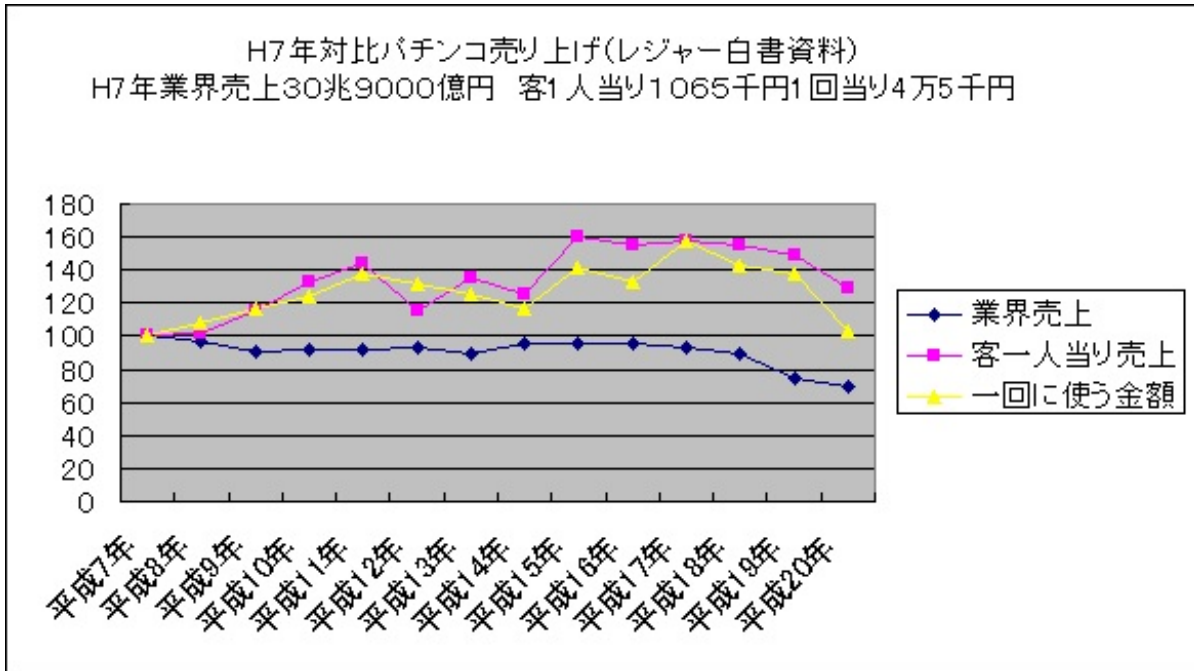
生活保護では医療費も全額国費で賄われておりパチンコには無縁の人も収めた税金が使われてい

るので立派にこの問題に関わっているのである。

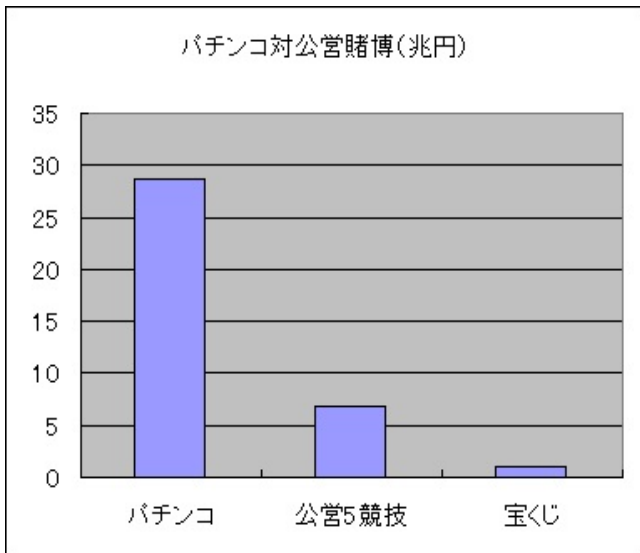
## パチンコ業界とはどんな業界？

平成7年には30兆円を超える売り上げ規模を誇ったパチンコ業界も平成20年には21.7兆円まで落ち込んだ。特にH18年からの落ち込みが大きい。これは貸金業法改正により金を借りてまでパチンコにのみり込んでいる客層が資金を断たれた結果と考えられる。

H7年2900万人の動員客数からH7年1500万人まで減らしながらも客1人当たりの金額はH7年を超える水準を維持している。このデータからパチンコ依存症の増加が推測できるのではないだろうか。



### 平成12年のパチンコと公営5競技宝くじの比較



平成12年のパチンコ業界売り上げは27兆7000億円で競馬、競輪等公営5競技合計に宝くじまで加えた額の実に5倍あるとされている。

平成12年余暇市場全体が85兆570億円であるのでパチンコだけで34%を占める異常ぶりである。

世界最大のギャンブル場ラスベガスをもつアメリカでさえ宝くじを加えても8兆円を超えていないのである。射幸性の高さからいえば賭博そのものといえるパチンコが何故白昼堂々と街中で営業をされているのか誰しも不思議に思うはずである。

食パン業界であれ工作機械業界であれ業界と名が

付けば〇〇組合〇〇振興協会といった業界団体がつき物である。パチンコ業界もご多分に漏れず強力な団体がたくさん作られておりそれらは強力なネットワークで組織化され、その中には有力な政治家の名前も連ねている。

警察庁生活環境  
協会の席で



賭博を取り締まる立場の警察までもが業界に寄り添ってまるで用心棒の役割を担っている。さすがの組織暴力団もパチンコには手が出せないのはパチンコ業界が最強の用心棒に守られているからで

# 日遊協第18回通常総会における講話

## 京庁生活安全局生活環境課辻義之課長

環境課の辻義之課長は、6月7日に開かれた日遊講話をおこなった。以下は講話の全文。

内に見童を置き去りにして死亡させる事案などが新聞でも取り上げられ、大変、気になっていたところでは、

基づき必要な規制の上で営業が行われており、風営法で認められた範囲内で営まれている営業については、賭博罪に当たるとは

業界には、賞品とりそろえの充実をお願いしているところであり、賞品とりそろえの充実、お客さまに賞品を遊ぶ楽

ある。  
政界との関係

自民党遊戯業振興議員連盟

民主党娯楽産

業健全育成研究会

民主党新時代娯楽産業健全育成プロジェクトチーム

衆参合わせ100名前後の国

会議員が関与している。

パチンコ業界の風営法適用範囲からの除外と、換金行為の完全な合法化を柱とする「遊技場営業の規制及び業務の適正化等に関する法律案大綱」などを公表しているグループやカジノ合法化に向けたカジノ法案の検討などを行っている政治家もいる。

主な業界団体

全日本遊技事業協同組合連合会

(略称：全日遊連＝

全国1万2千店舗パチンコホールの組織、理事長：原田實)

社団法人日本遊技関連事業協会

(略称：日遊協＝ホール・各

種メーカー・販売業者等の業界横断的組織、会長：深谷友尋)

日本遊技機工業組合

(略称：日工組＝パチンコ機メ

ーカーの組合、理事長：井置 定男)

日本電動式遊技機

工業協同組合

(略称：日電協＝パチスロ機メーカーの組合、理事長：里見 治)

パチンコチェンストアー協会

(略称PCSA：代表理事

ダイナム代表取締役社長 佐藤公平)

関係の深い団体

全日本社会貢献団体機構(AJOSC)

全日本遊技事業協同組合連合会（全日遊連）からの資金で教育事業、パチンコ依存症支援団体等への寄付をおこなっている。

保安電子通信技術協会

パチ

ンコの機種ごとに射幸性の多寡を判定し許認可を行うパチンコ業界に対して殺生与奪の権限をもっている機関。

判定は有料で標準的パチンコで一件当たり1,524,200円、回胴式と言われるスロット型では1,810,200円を取り年間約700件受け付けている。

会長、元警視総監 専務理事、元警視庁情報通信局長、常務理事、元福岡県警本部長、等々、歴代役員、理事の多くは警察出身者が占めている。

## パチンコは賭博禁止法に違反してないの？

---

パチンコ業界が法的拠り所としているのは風俗営業法で7号営業（ぱちんこ、遊技場等）として国家公安委員会の規制管理下に置かれていることでパチンコは遊戯として国も認めているということだろう。

7号営業規則でも遊戯は過度の射幸性が有ってはならないとされており〔刑法 第2編第23章 賭博及び富くじに関する罪〕の適用を射幸性の多寡によっては免れることができないのは明らかである。

それでは風俗営業法の過度の射幸性とは如何なるものかとなると明確な基準は示されていないが、いえることは過度の射幸性を持つ遊戯は賭博であるということだ。

のめり込んだ挙句借金まみれになる人間が100万人以上も出て、窃盗、横領、自殺などの影の要因にもなっている遊戯が射幸性が低いといえるだろうか。

（賭博とは、金銭や品物などの財物を賭けて偶然性の要素が含まれる勝負を行い、その勝負の結果によって賭けた財物のやりとりをおこなう行為の総称をいう）この定義を今のパチンコに照らし合わせてパチンコは賭博ではないと言える人がいたとすればよほどのへそ曲がりかパチンコの利害関係者だけだろう。

パチンコ業界で3店方式と呼ばれている景品の換金システムによって風俗営業法で禁じている景品買取を合法化しようとしているが子供だましのような脱法行為といえる。

賭博を厳しい刑罰をもって禁止しているのはその行為が人心を狂わせ社会を墮落させる危険な行為であるからに他ならないからで、100万人以上を（パチンコ＝ギャンブル）依存症に陥れている現状を正すには特別な法律は必要なく国が現行法を正しく運用さえすればよいのである。

パチンコで多額の借金を負い身を持ち崩してしまった人が何人か集まり国が取り締まらなければならない【賭博を街中に放置した責任】を追求する集団訴訟を起こせば勝てるかもしれない。

原告になれる人が集まる強迫的ギャンブル対策協議会、NPO法人ワンデーポート（ギャンブル依存症リハビリ施設）などがその役割を担えないのだろうか。

この訴訟はパチンコが賭博と認定されるか否かで勝負がつくが業界存亡の危機ともなれば20数兆円が飛び交う業界の金権パワーと違法性に目を瞑ってきた警察庁、公安委員会の自己防衛パワーが合わさってどのような反撃に出るのか考えると恐ろしくなる。

## パチンコ依存症は治るの？

---

一口に依存症と言っても様々な段階がある。

自分はパチンコなど止めようと思えばいつでも止められると思いながら足繁くパチンコ屋に通っている段階の人。借金で行き詰まり親に肩代わりしてもらいその時は本気で反省をし、暫らくして少しぐらいならとまたのめり込んで借金を作り同じ事を繰り返している段階の人。

親の資金も底をつき完全に行き詰ってしまい後は他人様のお金に手を出すかホームレスに加わるかしか道がなくなってしまった人まで様々であるが本人や伴侶、親兄弟は最初の反省期で完治したい、完治できると思いたいのであるが専門家グループが書いたある本（※）を読むとその想いは完全に打ち砕かれてしまう。

この本によれば堕ちるところまで堕ちてからでないとなりの立ち直りは出来ないという立場で買われている。具体的には今の勤めは辞める、妻とはたとえ子供がいても離婚する（妻の立場も考えてのこと）、親族による借金の肩代わりはしない、リハビリ施設で約2年間の矯正訓練を受ける、施設に通いではなく居住が原則となっている。

（※）『病的ギャンブラー救出マニュアル』精神科医 伊波真理雄【編著】 PHP研究所 発行  
まだ堕ちきっていない依存症者の置かれている段階より悪くししない方法、良くなる可能性はどこのも書いてないのである。生活が破綻して首に掛けるロープを前にしている人にとっては福音の書かもしれないが50万円くらいの消費者ローンで四苦八苦している段階の人にとっては地獄の黙示録に見えるだろう。

自殺や犯罪の可能性を感じさせるほど苦しんでいる我が子を見て当面の苦境を助けられるのに手を差し伸べないでいられる親がいるものだろうか。放っておけば死に至る糖尿病でも本人の自覚と周囲の協力があれば平均寿命を生きることが可能であるようにパチンコ依存症で生活を破壊される前に生活を守りながら立ち直る道が有る筈である。



## パチンコ依存症との闘い

---

この病魔は手強い相手である。10年も20年も掛けて衰弱させても獲り付いた相手を死なそうとはせずパチンコに奉仕させ続けるのである。この病魔と互角に戦えるチャンスは滅多に無い。生活破綻の淵に立たされ我に返り愚かな行いを深く反省する気持ちが湧き上がった時ようやく闘いを始められるのである。

放置しておくで自己嫌悪に陥り現実逃避のためパチンコに癒しを求め、このことがさらに悩みを深め破滅的とも言えるのめり込みに至ってしまう。

ギャンブル依存は人格を破壊し良心をも失い、周りの人を傷つけ家族全員を不幸に陥れる危険で邪悪な病であり治癒は簡単ではない。

邪悪な病魔は姿を隠し治つ

たと思わせ隙を突いて姿を現すのである。

闘いへのスタート条件を備えているか。

◎当人がギャンブル依存症であることを認めている。

◎治癒したいという意欲を持っている。

・・・闘いの始まり・・・

パチンコ依存症の特徴を理解する。

◎反省し止めることを誓うが何

度も繰り返す。

◎進行すると意思の力が役に立たなくなる。

◎進行すると自己を客観的に見ることがでなくなる。

◎あるべき生活と現実のギャップを嘘で埋めるようになる。

◎自己抑制に自信を持っている人は依存症を認めたがらない。

◎現実を認めたと罪悪感を感じやすく鬱病になりやすい。

自己の人間的特長を列挙する

◎職場でのプレッシャー

に弱い。

◎自己主張が弱く家族などの提案を積極的には拒否しない。

◎無理を背負い込む。

パチンコの邪悪さを調べ何時でもイメージできるようにする。

好きな食べ物でもちょっとしたき

っかけで箸も付けられなくなる事がある。

鯖で食あたりした人はほぼ全員その後、鯖は食べられなくなる。

痛みを伴わない言葉によるきっかけでもこのことは起こる。

実際に有った話で、食べだすと止まらなくなるほどの好物の食べ物でも、

その食べ物にまつわるおぞましい体験談

を聞いた後にまったく食べられなくなってしまう人もいた。

好きな友人、恋人でもその人が邪悪な心を持っていると知れば普通の人であれば嫌いになり

会いたくもなくなるはずである。

◎今までにパチンコに費やした金額と時間を出来るだけ正確に調べ書き出す。

◎パチンコに費やした金額で買える物

を思い浮かべ書き出す。

◎書き出した紙を財布に入れいつも持ち歩く。

日常生活の改善

依存症になる人はストレス解消が下手な人が多いと言われておりストレスを発散させる手段を複数もつ。

ゴルフ、自転車、等アウトドア系と仕事に関係しない分野の読書などインドア系の両方をもつことが理想。

依存症になり易い人はいつも全力で生きて行こうとしている人が多く壁が現れたとき乗り越えるための力の溜めがないので受けるストレスも大きい。

◎日常は80パーセントの力で生活することを心がける。

ギャンブル依存症の因子は誰でも元々持っておりゼロにはできない。

依存症経験者は因子が発現しやすい位置に留まっており再発防止の取り組みを緩めることは危険である。

本人は勿論のこと家族を含めた真剣で継続的な再発防止の取り組みが必要である。

◎糖尿病などの持病と同じと考え生涯に亘り依存症に対して危機意識を持ち続ける必要がある。